

## 平成18年7月豪雨災害から10年シンポジウム「当時を振り返り、今何をすべきか考える」

出雲河川事務所

○今年、平成18年7月に島根県東部を襲った豪雨災害から10年目の節目であり、当時を振り返り、今、またはこれから何をすべきか地域の皆さんと一緒に考えるきっかけとしてシンポジウムを開催。

○松江工業高等専門学校の浅田教授から、住民避難に関する問題点とあるべき対応について講演。

○松江市長、出雲市長、雲南市長、浅田教授、出雲河川事務所長によるパネルディスカッションにおいては、平成18年7月豪雨災害を振り返り、今年の6月に公表した想定最大規模降雨における浸水想定を踏まえ、7月に取りまとめた「斐伊川流域の減災に係る取組方針」から重点的に対応を図るべき内容について、公開討論。

○会場内では、水防災意識社会再構築ビジョンに基づく「斐伊川水系大規模氾濫時の減災対策協議会（松江市、出雲市、雲南市、出雲河川事務所、松江国道事務所、松江地方気象台）」の取り組み内容等をパネルで紹介。

### 【概要】

日時：平成28年7月18日（月・祝）

会場：松江市（くにびきメッセ）

参加者：約300人

主催：斐伊川水系大規模氾濫時の減災対策協議会



来場者は300人を超えた



基調講演（松江高専 浅田教授）



パネル展示



パネルディスカッション（松江市長、出雲市長、雲南市長）



パネルディスカッション（浅田教授、出雲河川事務所長）

## 「斐伊川流域の減災に係る取組方針」のPR

出雲河川事務所

①シンポジウムにおけるパネルディスカッションにおいて、松江市長、出雲市長、雲南市長、出雲河川事務所長、学識者を交え、各自治体における取組内容について公開討論。

### 【首長のコメント】

#### ・松江市長

防災リーダーの発掘・育成に取り組むとともに、企業や事業所において浸水対策を強化してほしい。また、ハード対策も重要で大橋川改修をしっかり進めなければならない。

#### ・出雲市長

防災メール登録者の拡大やハザードマップの見直しに取り組むとともに、大橋川改修についても予算を確保し進めてほしい。

#### ・雲南市長

自主防災組織の育成強化や要支援者の避難支援に取り組んでいる。また、「津波でんご」のような各家庭での自主的避難の徹底が重要。

②取組方針の内容をパネル展示し、一般向けにPR。また、取組方針の冊子をパネル展示コーナーに設置し、希望者へ配布。（約100部配布）



パネルディスカッション



取組方針のパネル展示



パネル展示の状況



希望者へ取組方針本文の配布

## 『関係機関水防訓練』との連携

- 洪水はん濫による被害の軽減、避難時間の確保のためなどの水防活動の取組として、各関係機関と連携を図りつつ水防訓練を実施。
- 平成27年9月の関東・東北豪雨以降、これまでの地震災害を主とした訓練から、水災害を想定した実動訓練に変更して実施する自治体が増加傾向。

### 下妻市防災訓練 6月19日開催



災害対策本部の設置訓練



避難所開設および  
周辺住民避難訓練



重機を用いた  
大型土のう設置訓練



周辺住民参加の  
土のう作成訓練

市町村名	水防訓練等名称	開催(予定)日	参加団体等
取手市	第65回利根川水系連合・総合水防演習	5月21日(土)	国土交通省関東地域 国土地理院、一部六員、陸上自衛隊、日本赤十字社、取手市水防団等
筑西市	筑西市消防団水防訓練	5月29日(日)	筑西市、下館河川事務所、茨城県筑西市土木事務所、筑西広域消防本部筑西消防署、各消防団
八千代町	総合防災訓練	5月29日(日)	八千代町
結城市	結城市水防訓練	6月5日(日)	結城市、結城消防署、結城市消防団、小山市消防団、筑西土木事務所、下館河川事務所
龍ヶ崎市	水防訓練	6月5日(日)	龍ヶ崎市、一般市民、利根川下流河川事務所
下妻市	防災訓練	6月19日(日)	各自治体(区長)、自衛隊、消防署、災害協定企業・団体、下館河川事務所
八千代町(幹事)	鬼怒・小貝水防連合体水防訓練	7月3日(日)	鬼怒・小貝水防連合体(下妻市・常総市・つくば市・八千代市・つくばみらい市)
宇都宮市	宇都宮市水防訓練	7月9日(土)	宇都宮市、宇都宮市消防本部、宇都宮市消防団、栃木県消防防災航空隊
常総市	洪水時情報伝達演習	9月5日(月)	常総市、茨城県、気象台、下館河川事務所

### 水防訓練実施一覧

鬼怒川・小貝川減災対策協議会

『水防災意識社会』の再構築を目指します。

## 水のう工法の試験施工の実施

- 洪水に対する地域の防災力の意識を高めることを目的に、水のう工法の試験施工を実施
  - 実施期間:平成28年9月15日(木) 13時30分~15時30分
  - 参加者:取手市、龍ヶ崎市、利根川水系県南事務組合、筑波大学、報道関係者等 合計20名
  - 実施場所:小貝川右岸4.4kmの高水敷き(取手市中内地先)
  - 訓練内容:堤防からの越水防止を図るための水のう設置の試験施工  
※水のうとは、土の代わりに水を注入する水防機材であり、短時間の水防対策工が期待される工法です。



訓練前の状況  
※上流側は1段目のみ事前に水注入



訓練後の状況  
※今回は2,3段の水注入



水注入の様子



止水効果、設置高さ等の確認

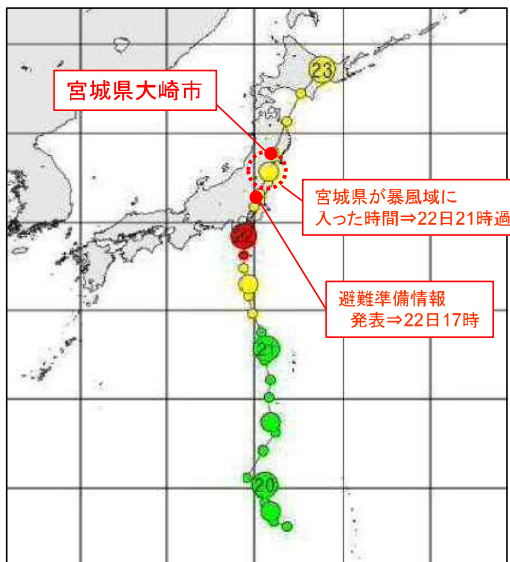
鬼怒川・小貝川減災対策協議会

『水防災意識社会』の再構築を目指します。

# 台風接近に備え早期に「避難準備情報」を発表！

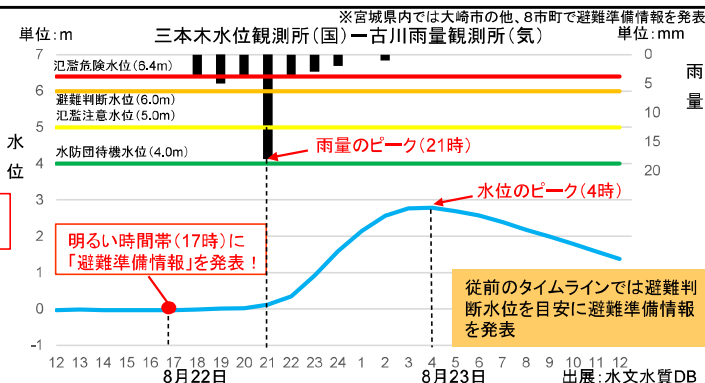


- 8月22日未明、台風9号が本州に上陸。東日本を縦断し、大雨を降らせた。
- 昨年の関東・東北豪雨で堤防が決壊した宮城県大崎市において、「水防災意識社会 再構築ビジョンに基づく鳴瀬川等の減災に係る取組方針(H28.7.5策定)」に基づき、課題であった夜間の住民避難への対応のため、**タイムラインの初動体制を見直しているところ。**
- 台風の影響を考慮し、**安全な避難ができる明るい時間帯に「避難準備情報」を発表。**住民に早め早めの避難を促した。



台風9号 経路図

出展：国立情報学研究所(NII)



大崎市避難準備情報（平成28年8月22日（月曜日）午後5時現在）

大崎市HPより

17時00分（明るい時間帯）  
大崎市全域に避難準備情報を発表

避難所	避難所
山田地区 山田地区小学校	山田地区 山田地区小学校
山田地区 山田地区23分館	山田地区 山田地区23分館
山田地区 山田地区保健センター（プラザ）	山田地区 山田地区保健センター（プラザ）
山田地区 山田地区中学校	山田地区 山田地区中学校
山田地区 山田地区公民館（山田地区市民センター）	山田地区 山田地区公民館（山田地区市民センター）
山田地区 山田地区公民館（山田地区市民センター）	山田地区 山田地区公民館（山田地区市民センター）
山田地区 山田地区公民館（山田地区市民センター）	山田地区 山田地区公民館（山田地区市民センター）
山田地区 山田地区公民館（山田地区市民センター）	山田地区 山田地区公民館（山田地区市民センター）
山田地区 山田地区公民館（山田地区市民センター）	山田地区 山田地区公民館（山田地区市民センター）

※実際に避難された人数は22世帯33人

## 【北海道常呂川】ミズから命を守る「川の防災学習会」を実施



（自ら・水から）

- ◆ 北海道開発局網走開発建設部では、常呂川に近接する北見市立小泉小学校において「川の防災学習会」を実施しました。
- ◆ 同校では平成20年度より河川環境や地域への理解を深めるため4～6学年の3ヵ年1サイクルとした「防災・環境教育活動プログラム」を作成・実施し、川での体験活動を取り入れた「生きる力」を養う学習会を行っています。
- ◆ 学習会では、夏の台風による洪水の写真などから被害の大きさを確認し、5学年では学区内のハザードマップを作成。6学年では実際の避難を想定した図上訓練を行いました。



### 学習会の様子



児童らが自宅周辺の危険箇所を確認し回避した避難ルートを検討(6学年)

模型実験で災害時の理解をサポート(5学年)

【学習会概要】

**開催校** 北見市立小泉小学校  
(全校児童 599名)

**5学年(マイ・ハザードマップ作成)**

- 開催日：平成28年11月8日（火）
- 対象：5学年 108名

**6学年(災害図上訓練(DIG))**

- 開催日：平成28年11月7日（月）
- 対象：6学年 94名

◆常呂川では、大規模な氾濫の発生に備え、減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的、計画的に推進する「水防災意識社会」の再構築に取り組んでいます。（参考）網走開発HP：<http://www.ab.hkd.mlit.go.jp/kasen/gennsai/index.html>  
自然災害から命を守るためには幼少期からの防災教育が重要であり、災害対応の実務を担う網走開発建設部では、学校教育現場における防災教育の支援を行っています。

## 児童ら自らが実際に避難路を歩き防災について学びました

◆平成28年8月の大雨により、音更町市街地を貫流する十勝川水系音更川では、既往最高の水位を記録しました。多くの児童が音更川の増水状況を経験した木野東小学校において、音更町の協力を得ながら防災教育を実施しました。

実施日：平成28年11月1日（火）

対象校：音更町立木野東小学校 第4学年（児童数125人：4班に分けて実施）

主催：音更町（総務部 情報・防災課）

協力機関：北海道地域（とちか）防災マスター、警察、北海道開発局 帯広開発建設部 治水課・帯広河川事務所

目的：洪水時の避難先である下音更中学校までのルートを確認し、非常時に備える。

児童が避難ルートを歩いたときに感じた危険な箇所など聞き取り、避難路の安全向上に努める。

実施内容：①音更町ハザードマップの目的・記載内容について、生徒との対話形式により説明。

②木野東小学校から、高台に位置する避難所である下音更中学校までの約2kmの避難ルートを実際に歩いて確認し、危険箇所を説明。

③避難ルートを歩いた後、各自の意見を共有するため、どのように感じたかを児童から発表。

「普段見慣れた風景でも、大雨時は危険な箇所が潜んでいること」を実際に避難路を歩きながら学びました。



## 最上川上流水防災意識社会再構築ビジョンの取組 H28.11版

### ■防災知識普及のための報道関係者向け説明会を実施

- ・報道関係者に複雑化、高度化する各種防災情報や河川管理者の洪水対応について説明。
- ・地域住民の水害からの避難や被害軽減に対する意識を高めることを促す報道を期待。

### 河川防災知識普及のための説明会

- 日時 11月 7日(月) 9:00～10:30  
11月14日(月)13:00～14:30 ※2回に分けて開催

- 場所 山形河川国道事務所

- 出席者 NHK、山形放送、山形テレビ、テレビユー山形、さくらんぼテレビ、山形新聞、読売新聞

- 内容
  - ・危険度に応じた基準水位と避難情報の関係
  - ・洪水時の情報提供
  - ・河川管理業務(出水時、平常時)
  - ・これからの水害対策
  - ・災害対策室の紹介

### ■主な意見及び質問内容

- ・避難判断水位が要配慮者の避難開始の目安であることを一般に伝わっていないのでは
- ・基準水位の意味は全国統一なのか
- ・タイムラインは沿川市町全てで作られているのか
- ・漏水が起こりやすい箇所を把握しているのか
- ・水防警報と洪水予報をよく理解せず受信していた
- ・災害対策室は洪水時に取材できるのか
- ・基準水位と避難情報の関係を再確認できた
- ・説明会の内容を社内で共有したい



説明会開催状況



今後の水害対策映像放映(東北地整作成)



災害対策室の紹介

## プロジェクションマッピングを用いて洪水浸水想定区域の説明（五ヶ瀬川：延岡市）

- 延岡河川国道事務所では、想定最大規模の洪水浸水想定区域図を公表しました。（H28.8.30）
- 延岡市防災フェスタにて模型に映し出す、プロジェクションマッピングを用いて洪水浸水想定区域図を説明し、避難の重要性を多くの方々に理解していただきました。

- 日 時：平成28年11月20日（日）
- 場 所：延岡市消防本部
- 主 催：延岡市防災フェスタ実行委員会（延岡市）
- 共 催：国土交通省、自衛隊、延岡市自主防災組織連絡協議会 等多数
- 目 的：防災フェスタを通じ、自主防災組織やボランティアなど防災に関わる人々、さらには防災関係機関等の連携を強化し、延岡市の目標とする地域防災力の向上を図る。



全28団体が参加し、子供連れの家族等の多数の方が来場されました。子供たちを含め、大人の方々も“楽しく”防災について学んでいただきました。



### プロジェクションマッピングを用いて洪水浸水想定区域を説明



プロジェクションマッピングを用いて延岡市の模型に洪水浸水想定区域図を映し出し、避難の重要性を説明しました。



### 延岡市防災推進員による相談コーナー

防災に関する相談コーナーや自主防災組織が未結成な地区の区長への相談コーナーも設けられ、一般住民の方に防災について知ってもらうことや自主防災組織の重要性を話すことで減災意識が高められました。

